令和４年４月 22 日

都道府県
各　指定都市　外国人介護人材担当課（室）　御中
中 核 市

厚 生 労 働 省 社 会 ・ 援 護 局
福祉基盤課福祉人材確保対策室

外国人介護人材の受入れに関する調査研究事業等について（情報提供）

日頃より厚生労働行政の推進にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、当室では昨年度、調査研究事業において、特定技能外国人や技能実習生についての受入れの実態を把握するとともに、特定技能外国人に対する教育や学習支援、受入れに当たっての法人の体制、登録支援機関における受入支援の情報や、技能実習生の実習修了後を見据えた進路の検討や在留資格移行の検討に資する情報を提供するためのガイドブックを作成し、外国人留学生の理解度や特性を踏まえた介護福祉士国家資格取得に向けた具体的な指導の在り方についてのガイドラインを作成しました。

また、補助事業において、日本在住の外国人材・外国人介護人材の方による「外国人材活用のための日本在住外国人による日本で働くことについてのホンネ座談会」を実施しました。

各事業の概要を別紙のとおりまとめましたので、内容を参照いただき、管内介護施設等が外国人介護人材を円滑に受入れができるよう、引き続きご協力お願い申し上げます。

あわせて、都道府県におかれましては、管内の市区町村あてに周知いただきますようお願い申し上げます。

以上

別紙

『特定技能外国人とともに育つよりよい職場づくり
～特定技能外国人の受入れに必要な支援に関するガイドブック～』
https://jicwels.or.jp/fcw/chosakenkyu/%E7%89%B9%E5%AE%9A%E6%8A%80%E8%83%BD%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E3%81%AE%E5%8F%97%E5%85%A5%E3%82%8C%E3%81%AB%E5%BF%85%E8%A6%81%E3%81%AA%E6%94%AF%E6%8F%B4%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF%20.pdf
（令和３年度老人保健健康増進等事業：「介護分野における特定技能制度の推進方策に関する調査研究」）
（公益社団法人国際厚生事業団）

特定技能による受入環境の整備を更に推進するため、次の３つのテーマを元とした調査研究の一環として作成したものです。
・テーマ１：特定技能外国人を受け入れる法人の体制
・テーマ２：教育・学習支援
・テーマ３：登録支援機関の活用

前半は、アンケート調査等の結果を元に「特定技能外国人の現状」、「特定技能外国人を受け入れている介護事業者の現状」、「登録支援機関の現状」を紹介しています。

後半は、ヒアリング調査等を元に様々な好事例を掲載しています。
・法人内の「グローバル戦略推進委員会」による外国人職員の受入れ
（社会福祉法人晋栄福祉会）
・「アシスト制度」によるサポートと登録支援機関による学習支援
（医療法人社団洛和会（洛和会ヘルスケアシステム））
・「受入れ機関」兼「登録支援機関」によるノウハウの蓄積と展開
（株式会社ツクイ（ツクイグループ）
・製造業での経験を活かした支援とインドネシア現地法人との連携
（株式会社 ORJ（アウトソーシンググループ）
・独自の学習システムの構築と海外４か国での学校運営
（株式会社 ONODERA USER RUN（ONODERA GROUP）
・フィリピン人材専門のコンサルティング会社と登録支援機関の連携
（ICHIGOICHIE CONSULTING,INC（常石グループ）
・外国人材の深い理解に基づくキャリア教育としての介護福祉士養成
（学校法人アリス国際学園（アリス学園グループ）

『受入事業所のための介護技能実習生キャリア支援ガイド 2022
～技能実習修了を見据えて～』

https://www.mizuho-ir.co.jp/case/research/pdf/r03mhlw_kaigo2021_0602.pdf
（令和３年度老人保健健康増進等事業：「介護分野における技能実習制度の実態等に関する調査研究」（みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社）

技能実習修了後の進路として、技能移転に加え、特定技能への移行や介護福祉士資格の取得等、技能実習以外の異なる在留資格にも触れながら、様々な選択肢ごとにその検討プロセスや必要な手続き、支援等を解説しているガイドブックです。

例えば、技能実習２号修了を見据えた準備として、受入れ開始前～受入３年目に至るまでのタイムラインに沿って以下のポイントを解説しています。また、介護職としてのキャリア形成支援のため、事業者や監理団体として取り入れていくことが望ましい環境整備や支援内容（以下１～４）や、帰国した技能実習生が、日本で習得した知識・技能を活かして母国で活躍するための支援についても事例等を紹介しています。

１．介護福祉士資格取得に向けた支援・育成
２．より効率的・効果的な日本語学習支援
３．介護職員としてのキャリアパスの提示
４．介護現場における ICT 環境の整備

※参考事例（順不同）
・技能実習生との定期的な面談実施／入職時の教育体制構築とスキルの評価／特定技能に移行し、後輩外国人介護職員を指導（**社会福祉法人新生福祉会**）
・在留資格ごとに期待する役割と、役割に応じた待遇の設定／日本語による実習日誌作成と 10 分面談の実施／外国人介護職員の役職員への登用／業務中の意思疎通を目的としたインカムの導入（**社会福祉法人奉優会**）
・技能実習生への２号修了後の意向確認／実習指導員と連携した技能実習評価試験対策／日本語能力向上のためのオンライン学習会とスピーチコンテストの開催／インドネシアにおける障害者向けサービスの情報収集（**公益社団法人トレンディングケア**）
・在留資格移行における登録支援機関の立ち位置と役割（**株式会社グローバルトラストネットワークス（GTN）**）
・介護専門教育機関の活用、および日ごろのモチベーション維持／多言語対応の介護記録用ソフトウェアを開発／現地職業訓練校での活躍を念頭に受入れ（**さくら CS ホールディングス株式会社**）
・日本語の教育体制、およびインセンティブの導入（**医療法人社団佐藤病院グループ**）
・介護福祉士資格取得を支援するための仕組み構築（**社会福祉法人洗心会**）
・作文執筆課題を取り入れた日本語学習プログラム（**社会福祉法人西春日井福祉会**）

「介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についての指導のポイント」

http://kaiyokyo.net/pdf/r3_ryuugakusei_point.pdf

（令和３年度老人保健健康増進等事業：「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」（公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会）

令和 2 年度に作成された介護福祉士養成校に向けたガイドラインを踏まえ、このガイドラインの別冊として、実際に養成校で留学生の教育指導を行う教員や、EPA 介護福祉士候補者への教育指導に携わる講師に焦点をあてたガイドラインとして作成されたものです。指導教育の前提段階、指導する際の日本語の使用に関してなど、指導教育の展開場面や段階に応じた留学生指導のポイント等も紹介されていますので、留学生や EPA 介護福祉士候補者に留まらず、技能実習生や特定技能外国人の受入現場等で展開されている教育指導に寄与するものと考えられます。

留学生指導のポイント（一部抜粋）

〇日本人教員(講師)が「当たり前」と考える一般常識などでも、外国人の方にとっては「当たり前」でないこともある。また、外国人の方が考える「当たり前」も、日本人にとってみれば「当たり前」でないこともある。

〇どのようなことが分かり、どのようなことが分からないかについて、個別性を鑑み指導していく必要がある。

〇日本語能力試験での取得レベルだけで判断するのではなく、留学生一人ひとりの個別性に応じた日本語能力や学習能力をあらかじめ掴んでおくことが重要。

〇講義で話すスピードを意図的に遅くする必要はない。ただし、学生の反応を見てスピードは調整が必要。

〇留学生が知っている日本語を理解するために、授業等日ごろから留学生とコミュニケーションを取ることが重要。

〇授業等の説明では、一文が長くなりすぎないように注意。

〇学生の理解を促すために言葉や文をやさしくすることは重要であるが、あくまで「やさしい言葉で説明する」ことであり、介護専門用語等覚えなければならない言葉を言い換えることを指すのではない。

<その他参考>

『外国人材活用のための日本在住外国人による日本で働くことについてのホンネ座談会』

https://japancwg.com/ja/%e6%97%a5%e6%9c%ac%e3%81%a7%e5%83%8d%e3%81%8f%e9%ad%85%e5%8a%9b%e3%81%a8jcwg%e3%81%ae%e3%82%bb%e3%83%9f%e3%83%8a%e3%83%bc%e3%82%92%e9%80%9a%e3%81%98%e3%81%a6%e6%84%9f%e3%81%98%e3%81%9f%e3%81%93/

（令和３年度外国人介護人材受入促進事業）

（株式会社エスピー・リング東京）

令和３年 10 月～令和４年１月にかけて開催された現地語によるオンラインセミナー（７カ国）に司会者・出演者として参加した日本在住外国人のうち４カ国（インドネシア、フィリピン、ベトナム、スリランカ）の方々に集まっていただき、日本語での座談会を開催したものです。

構成は、

Theme01：日本で働く魅力と JCWG のセミナーを通じて感じたこと

Theme02：介護現場で働く魅力とコミュニケーション方法について

Theme03：将来・ビジョンについて

の３部構成となっており、それぞれ動画を搭載しています。日本在住の外国人介護人材の方々は Theme02・03 に登場しています。